

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400378		
法人名	株式会社ホライズン		
事業所名	グループホーム三和		
所在地	福島県いわき市三和町渡戸字峠平33-1		
自己評価作成日	平成26年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成26年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい暮らしが継続できるように、外出・外泊・買い物・ご家族との交流を大切に、ストレスにならないように心がけています。また、認知症の理解を深めると同時に、利用者ひとり一人の気持ちを十分考えて、自然が多い環境の中で日々楽しく暮らしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

庭の畑を利用者と職員で手入れをし、収穫した野菜と一緒に料理して旬の味を楽しんでいる。
協力医療機関との連携が良く、職員の夜間の相談や利用者の体調の変化にも適切な対応が来ている。協力医療機関からの、毎月の情報提供書をもとに利用者の現状に即した対応や配慮がされている。

Ⅶ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義と、事業所理念を理解し実践に努めている。	職員は採用時の研修で基本的な安心、安全、その人らしく、という理念を学び理解し、いつも念頭において利用者の望む生活への支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつではあるが、地域との交流ができています。	中学生の体験学習を受け入れている。老人会に事業所の様子を伝えたり、地域行事への参加の声掛けがあったりと近隣との交流の場を広げようとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校の福祉体験学習で、認知症の理解や支援の方法を学ぶ機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見やアドバイスを活かしサービスの向上に努めている。	定期的に利用者の状況や行事の報告をしている。利用者の買い物時のお金の管理等について、家族の質問や要望ににこえるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状報告や質問などのやりとりを含め、協力関係を築いていけるように取り組んでいる。	四ヶ月に一度、定期的に利用者の状態を報告している。状況に応じその都度連絡し、質問や相談等の協力関係も出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、身体拘束の具体的な行為や、拘束をしない大切さについても理解している。また、玄関の施錠は夜間のみである。	常勤職員が中心となり研修に参加している。研修資料を全員で回覧し話し合いの場を設けている。問題がある場合、速やかに話し合い、職員全員で共有し適切な対応を工夫している。利用者の側にいるだけでなく、少し離れた見守りにも効果があることも共有し実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、虐待について話し合いを持ち、全職員虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて権利擁護について学び、今後活用できる利用者がいれば支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点の確認も含め、十分に説明し理解と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話ができる時間を作り、意見や要望を聞いている。そこでの議題について職員とも話し合い運営に反映させている。	二ヶ月に一度、手紙での現状報告を行い、利用者の状態を家族が把握できるよう対応している。状況に応じその都度電話での連絡を行っている。連絡等で意見や要望があれば職員全体で話し合い、運営に反映させている。墓参りの希望等は、家族に伝え実行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案をミーティングを開き反映させるようにしている。	月に一度、話し合いの場を設け、気が付いた事や問題点等に対応している。状況に応じ、その都度話し合い、申し送り時に報告し全職員での共有、理解している。最近入所した利用者の対応は、職員間で連絡を密に取り合いながら、より良い対応を探っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の実績や、勤務状況について把握し、給与に反映させている。また、働きやすい環境作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の外部研修の参加が少ないので、少しでも多く参加させて、職員一人ひとりの技術の向上に努めたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流のある施設と、研修や情報交換、ネットワーク作りでお世話になっており、今後も充実させたい。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始する前にしっかりと話を伺うようにしている。特に初回の対面は重要視している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場として、疑問や要望等を聞き入れて対処できるよう、いつでも連絡がとれるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームという選択がベストなのか、今までの状況の経過を家族や関係者等と話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする物同士という関係で、日々楽しく過ごせている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支えるという形で本人を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や、なじみの場所など、本人が大切にしているところは、継続してつながりが持てるように支援している。	利用者の意向を家族に伝えたり、月一度、実施しているドライブや買い物、紅葉狩りなどの季節の行事を通して懐かしい場所に出かけるなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、良好な関係が継続できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、関係性を大切にしながら、必要に応じて利用者や家族の相談や支援ができるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと話す機会をつくり、希望や意向を聞き取っている。	担当職員を中心に聞き取り方を工夫し、意向の把握に努めている。困難な利用者には大きな声でゆっくり話し、うなずきや首振りなどの状態を確認しながら、一人ひとりに対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者に、生活歴やこれまでの経緯等についての情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との会話や、職員からの情報も含め現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族と職員が話し合いをしながら、現状把握をして、その人にあった計画作りを心がけている。	家族、利用者が協力医の情報提供書を元に職員と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。職員間での情報の共有し、利用者個々の状況が把握され、利用者の心の安定にも繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から、職員間で情報共有し、よりよい支援の方法の模索をして、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々にも、生まれるニーズに対応すべく、柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの地域資源を把握し、有効に楽しめるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を最優先とし、かかりつけ医へは、家族が受診を基本とし、希望があれば職員が受診対応し、情報を共有している。協力医療機関との応援体制が受けられるようにしている。	利用者全員が協力医を利用している。夜間緊急時の対応も速やかで利用者、職員とも安心できている。月二回の往診時には、職員の話も良く聞き取り、随時対応してくれる。情報提供書で状態を共有し、より良い支援に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や気づきがあれば、速やかに訪問看護師と連絡を取り、指示を仰ぐようにしている。また、普段から相談や報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院設備のある病院と協力医療機関であり、入院した際の状態や、経過、また今後の方針も含めて、相互に情報交換できる関係である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始時に、重度化と終末期の対応について、できる事、できない事を説明し同意を得ている。本人と家族の意向を重視しながらも、適切な対応が図れるよう努める。	入居時に、利用者・家族に重度化や終末期について説明している。協力医との連携で対応しているが、今後利用者の希望があれば事業所での看取りも考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当が身についていない。急変時や事故発生時の初期対応については、定期的な訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練や、勉強会、研修等で避難ルートや、対応方法など理解している。また、運営推進会議にて、地域の協力が得られるよう努めている。	災害時の職員間の連絡網は出来ているが、夜間の災害訓練は今後の課題と考えている。食料品、水、紙おむつ等の備品を準備しており、災害時に対応できるようにしている。	出来るだけ早く夜間の訓練を実施し、少しでも安全に避難できるような対応が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、職員の言動には十分配慮し対応している。トイレの声掛けなども、言葉使いはもちろん声掛けの内容にも注意している。	自己決定できるよう、一人ひとりに合わせた声掛けを工夫している。夜間失禁がある利用者には、職員もポケットにパットを持ち歩き、職員も同じ状態という安心感を与えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望が、なかなか表現できない方に対して、思いを出せるように努めている。また、自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを優先し、希望に応じた生活リズムになるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容や洋服の洗濯なども、本人の意向を重視し、清潔感があるおしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど、できることはお願いしている。職員は、安全に楽しく食事ができるように支援している。	庭の畑で取れた新鮮な野菜を使い、利用者個々の力を生かしながら酢の物やぬたなど自慢の料理を作っている。総て、カロリー、食べやすさを考え手作りされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのよい食事を提供している。また、1日の食事量と水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の力に応じた口腔ケアの支援を毎食後行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、それぞれの状態を把握して、その人にあった排泄支援を行っている。また、おむつ使用の方でも、トイレで排泄できるよう努めている。	利用者全員の排泄チェック表を利用し声掛けや誘導で、出来るだけトイレの利用を促している。夜間はポータブルやパットの利用など個々の状態に応じた自立に向けての支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や運動で、できるだけ自然に排泄できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ希望に合わせた入浴支援をしている。入浴を嫌がる方には、職員を交代したりタイミングをはかるなどして、安心して入浴できるようにしている。	毎日入浴時間を設定している。個々のペースに合わせて週二回、職員が一对一で対応している。困難な場合は時間帯や対応する職員を変え、話し方を工夫するなどして入浴を楽しんでもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の体調や、ペースに合わせて休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの薬の内容について理解できている。また、きちんと服薬できているかの確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割について、日常生活の中のできる事や、やりたいことを実施してもらい日々生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、散歩したり買い物に出かけたりしている。外泊などは、家族の協力を得て行っている。	庭の畑作業や事業所周りを散歩するなど、日常的に外出している。今年はすぐ近くの土手でおにぎり昼飯にして紅葉狩りを楽しんだりしている。年末年始には家族の協力があり、外泊する利用者もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の希望や力に応じ、お金の所持・使用をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々電話のやりとりを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂には季節感のある手作りの作品を展示し、居心地のよい空間作りを心がけている。	居間は吹き抜けになっている。天窓からの採光がとても明るく、日中利用者のほとんどが、居間で過ごしている。壁には利用者の作品や写真が飾られ、気持ちの良い空間が作られている。感染症対策に、湿度等の管理も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中で、独りになったり、気の合う方々で談笑している場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	自宅で使用していた馴染みの物(タンス・テレビなど)を持ち込んでいただき、その人らしく暮らせるような配慮をしている。	部屋には大きな窓があり明るく、板張りの壁には自分の作品を飾り温かみを感じられる。居室の担当職員が決まっているので季節の衣類の整理等、職員が目配りし、利用者がその人らしく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所、居室については、混乱しないような配慮をしており、できるだけ自立した生活が送れる工夫もしている。		